

カーコンカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み **8,000円** (※) に含まれています。  
 さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。  
 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)



※9年カーリースの場合  
 ボーナス月加算あり

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません

カーコンカーリースの **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00  
 お申込みお問い合わせは   〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル

車市場とEV(1)

世界で普及する電気自動車(EV)がいよいよパツテリーの重さと性能が比較される時代となってきた。昨年、約1350万台販売されているといわれている世界のEV市場において圧倒的にトップの座を走っていたテスラだが、中国の比亞迪(BYD)が2023年第4四半期にテスラを追い抜き、数年ぶりにEV販売の王座を奪われた。さらに中国スマートフォン・家電大手の小米科技(シャオミ)など、続々と中国の優勢が続いている。地球温暖化におけるガソリンの排出量は、CO<sub>2</sub>の全体の割合で20%に過ぎない。そのシンボルキャンペーン的に電気自動車はもてはやされているわけだが、今後ともガソリン車やハイブリッド車との共存は、10年は続くであろう。さて、ここに至りてEVの問題も指摘され始めた。ガソリン車に比べるとタイヤの摩耗が進みやすく、粉塵の元になる粒子状物質がガソリン車より3割増えるという試算がある。地球環境保護のために、排気ガスを出さないEVが、実は逆に環境を汚し、新しい重荷となろうとしている。ちょっと皮肉な構造が生まれてきた。

乗用車は安全性やデザイン面で、人気を意識して、徐々に大型化し、重さが増えてきている。この傾向にEVが拍車をかける。バッテリーが大量に積まれるほど、長い距離を走ることができるため、重くなりがちなのである。現在、航続距離の最長は、中国の蔚来汽車(NIO)。1回の充電で1000kmを超えた。ところが、軽車両にもかかわらず、重さは一般的なガソリン車のほぼ2倍に当たる2600kg。米テスラのピックアップトラックに至っては、同種

のガソリン車のフォードF-150より3割以上も重い。

国際エネルギー機関(IEA)によると、世界の新車販売を占めるEVの比率は、2023年に15%。30年には40%。35年でやっと50%を超える見通しである。多くのユーザーがやはり距離性能を重視し、未来に向けてEVシフトが進むほど、重い車が全体的に多くなる。

カーコンビニ倶楽部は、決してトレンドや流行を追うのではなく、そこにある目に見えない問題を絶えず意識しながら、お客様のサービスを最適化しようと考えている。ガソリン車であろうが、ハイブリッドであろうが、あるいはEVであろうが、そこにあるのはお客様のニーズに本質的に答えるサービスの提供。確かに、地球環境は間違いなく悪化し、我々人間社会に影響を及ぼしている。と同時に、お客様の日々の生活を豊かにするカーライフを提供するのが私たちカーコンビニ倶楽部の使命である。



林 成治 Seiji Hayashi  
 出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業  
 1981年4月:プロミス株式会社入社  
 2008年4月:同社執行役員就任  
 2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任  
 2008年10月:同社代表取締役就任  
 2009年8月:パル債権回収株式会社 常務取締役就任  
 2010年4月:株式会社Doフィナンシャルサービス取締役就任  
 2011年1月:同社取締役退任  
 2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任